

もも・ネクタリン特報

H30. 3. 16 No. 1
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

発芽は平年よりもやや早まると予想されます。休眠期防除が遅れないよう、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等の準備を段取りよく進めましょう。

(参考：過去 4 カ年の発芽日、平岡地区)

白 鳳	平年	H29	H28	H27	H26	H25	H24
発芽日	4/1	3/30	3/30	3/31	4/2	3/28	4/8



【休眠期（発芽前）の散布】

◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地では、休眠期の防除を徹底しましょう。
特に、薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は樹全体に薬液がかかるよう、丁寧に散布しましょう。

◎トレノックスフロアブル体系と石灰硫黄合剤体系の 2 体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

トレノックスフロアブル 体系		散布日 散布量	月 日	石灰硫黄合剤 体系		散布日 散布量	月 日
散布時期：発芽前(3 月下旬)				散布時期：発芽前(3 月下旬)			
散布薬剤	水	9 8	リットル	散布薬剤	水	9 0	リットル
	スプレーオイル	2	リットル		展着剤	1 0	ml
	トレノックスフロアブル	2 0 0	ml		石灰硫黄合剤	1 0	リットル
対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類		散布量：10 アール当たり 300 リットル		対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類		散布量：10 アール当たり 300 リットル	
【注意事項】				【注意事項】			
① カイガラムシ類の多発園は、アブロードフロアブルの 1,000 倍(14 日前、3 回)を加用する。				① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル 50 倍を合剤散布の 5～6 日前に単用散布する。			
② トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤 80 の 1000 倍（開花前まで、5 回）でもよい。				② 石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。			
③ 混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ トレノックスフロアブル				③ 混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤			

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① カイガラムシ類の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。（または、被害枝の切除）
- ② せん孔細菌病発生園は、開花 5～6 日前にキンセツ水和剤 80 の 1000 倍（開花直前まで、5 回）を特別散布する。
＊枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、ガットサイド S1.5 倍液(30 日前、1 回)を樹幹部に塗布、または、開花期までにフェニックスフロアブルの 500 倍（発芽前～開花直前まで、1 回）を樹幹部に散布する。

次頁も必ずご覧ください

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発地域では、以下の事項にご注意ください。

①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

＊薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるため、特に凍害が心配される場合や6～7年生までの若木のみ除去を遅らせる。

②排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えに努める。（定植方法は下記参照）

③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等で緩和に努める。

【苗木の植え付けについて】

①植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

＊ユーキリン(20kg：3,826円)、もみがらくん炭(300：496円)、エアープイント(18kg：529円)は、営農センターにて取り扱っております。

②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）

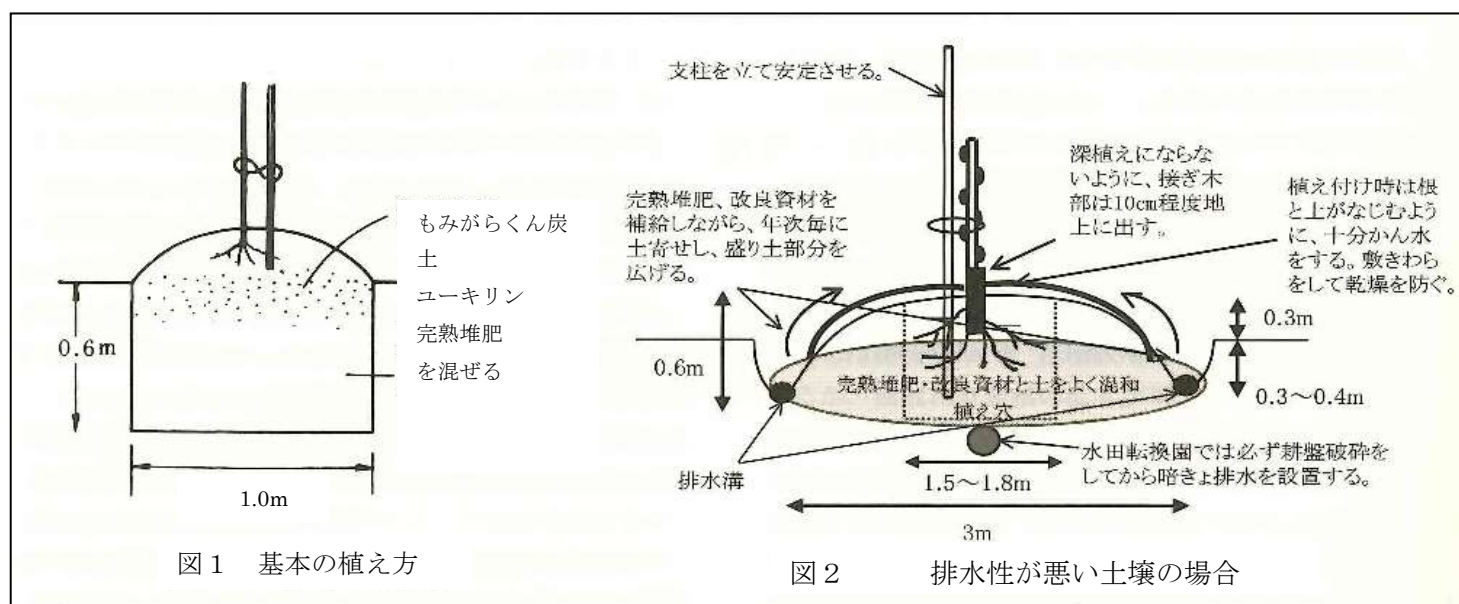
③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。

太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

⑤苗木は支柱を立て固定し、揺れを防ぐ。

⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



【摘蕾】： 結実の良い品種は必ず実施しましょう。

時期：4月上～中旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）

遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾の方法

①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。

②上向きの蕾を除く。横向きは残す。

③さらに長果枝(30～50cm)の根元の3分の1、中果枝(15～30cm)の先端部以外は除く。短果枝は4～5短枝当り1芽残す。

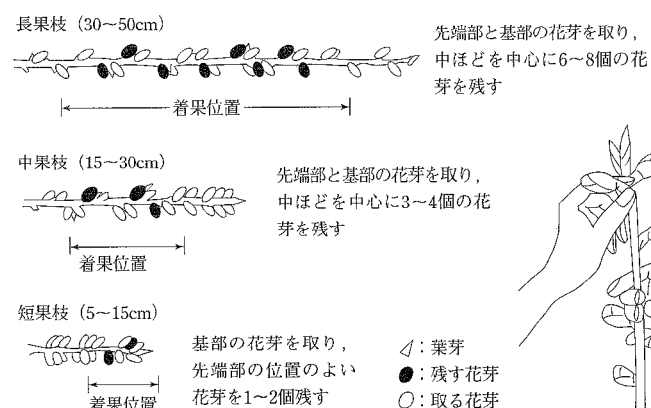


図1-10 摘蕾の方法